

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2017年10月号

# はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー  
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー  
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23  
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第588号

私は東京にある早稲田奉仕園に勤務しております。関東活動センターの聖書講座等を共催、協力させていただいております関係で、二〇一六年度より関東活動センター運営委員を務めております。奉仕園は一九〇八年に米国バプテスト教会の宣教師により創立、学生寮、青年教育や国際交流活動、会議室やホールの貸出、市民講座等をおこなっております。日本クリスチャンアカデミーとは多分に類似するところがあります。

さて、私の勤務先では本年よりほぼ初めてとなる事業評価に取り組んでおります。一般に評価というと外部・第三者によるものをイメージしますが、スタッフとしては実際の現場感覚からずれた指摘がなされ、無理な改善が求められるのではないかなど、懸念もありました。そこで、現場に密着し、評価結果を最大限に改善に役立てられるようにしたいと考え、「参加型評価」という手法にて実施することとしました。評価は、する側・される側という構図ではなく、現場で働く者が主体となり協働関係者にも参加し

てもらいながら進めます。そして、普遍的価値に基づく評価基準ではなく、自分たちの団体の目的に向かって、活動が達成の手段として機能しているかを基準にします。

感できる言葉として共有するという作業です。共通理解が得られたところで、目的と実際の活動との因果関係を論理的に検証し、目的達成の手段としての有効性を検証します。一つ一つ活動を見ていくと、合目的であるが、手法としては賞味期限切れと見られながら何となく継続しているものや、根本的に目的と結び

## そもそもを見つめなおす



西川 嗣夫

関東活動センター運営委員

「目的」を改めて全員で話し合う機会ができたことは、貴重なことでした。現場には公益プログラムの企画運営担当者だけでなく、貸施設の事務、施設管理、総務といった「目的」からは間接的な業務に従事するスタッフもいますが、各人がこの団体がより良い社会を作り出すことに貢献しようとする姿勢への深い思いや希望を抱いていることがわかり、それだけでも有意

つけるのに苦労する(?)と思われるもの等々もありました。そもそも新企画を検討するとき、目的まで遡って意識しているか?という問題も指摘されました。作業はまだ道半ばですが、冒頭に「私たちは何を目的にしているのか、何をめざして

義なことでした。前叙のとおり、奉仕園は日本での伝道を志した宣教師により建てられ、ミッションの支援を受けて発展してきました。広い意味での福音宣教という大目的のための手段として始まったともいえます。現在は公益法人であり宗教活動は行わず、スタッフもクリスチャンの方が少数です。個人的には、クリスト教はやや肩身の狭い感じをいただくこともあります。難しいことですが、創立者が常に抱いていたであろうこの大目的という伏流水も絶やさずに、大切にしていきたいと願っています。クリスチャーニティーについては、あるいはクリスチャンアカデミーはじめクリスト教諸団体も同様の課題を感じておられるかもしれない、ぜひいちど情報交換の機会があればと思います。

「そもそも」を見つめなおすことは様々な気付きを与えてくれます。五百年前の宗教改革もそのような問い直しからだったのかもしれないね。  
(公財) 早稲田奉仕園理事・総務シニアマネージャー

関東活動センター

●2017年度 関東フォーラム 宗教対話Ⅰ  
「日本キリスト教史を読む」

第一期(明治篇 全7回)

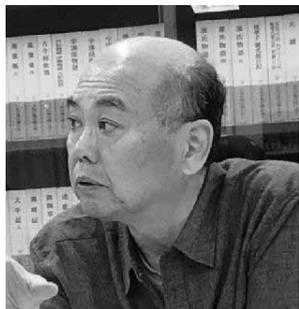
講師 日本基督教団千代田教会牧師 戒能 信生さん

2017年6月〜12月第2木曜  
日本キリスト教会館1階

「プログラムに参加して」

巢鴨ときわ教会 永田 昇

戒能牧師については過去2回巢鴨に説教、講演会にお招きしています。また昨年、京都の同志社神学協議会では「日本のプロテスタント教会の過去・現在・未来」「現在の教会の課題と希望」を受講しました。戒能牧師は96年から05年まで教団の教団史編集室長としてお働きいただき、



特に教団教会教勢・財務については貴重な研究をされています。2020年9月巢鴨は創立100周年を迎え、今年記念プロジェクトを立ち上げました。私は記念史について担当することとなり、教会創立前前の新島襄が安中教会を立ち上げ時まで遡り、次に海老名弾正が安中から前橋へ開拓伝道、その後、東京へ進出し、巢鴨の母教会である本郷教会(現在の弓町本郷)を創立した経緯を紐解いています。この時の勢いは現代に生きる私には想像が付きません。世相的には軍国色が深まる中、当時の人々(主に学生)と教会の繋がりには脅威さえ覚えます。海老名弾正について文献を探しましたが他の方々に比べ非常に少な

い上、海老名を異端者扱いしている文献が多いのには驚きました。開国後、天皇主権の中、欧米にやられた仕返しを大陸へ向けた軍国主義政策。混乱した中で生きていく人々へキリスト教を布教していく訳ですが、多少解り易く解説したとしても許されるのではと私は思います。海老名の弟子からユニテリアンが多く出たことも事実です。しかしユニテリアン以上に多くの会衆



主義教職を輩出し、各地で新たに灯をともしたことも事実です。9月14日に植村正久を学びました。海老名と比べる」と正統派で、弁論でも優れ、有名な海老名と植村の「キリストは神か人か」論争は1年間続き結果、植村が勝ったこ

関西セミナーハウス活動センター

●2017年度「開発教育セミナー」第2回  
「ビジネスで持続可能な社会をつくる」  
〜インドネシアのカカオとの出会いから〜

講師: Dark株式会社代表取締役 吉野 慶一さん

2017年7月15日(土)〜16日(日)

インドネシア・スラウエシ島でのカカオ豆の生産から、チョコレート製造まで一貫して行うダリKが、京都で起業したのは2011年のこと。まだ6年程だが、ビジネスを通して、持続可能な社会をつ



くることに大きく貢献しながら、新しい挑戦を続けている。気候や国際価格の変動など、農家にはどうすることもできないことに対するダリKの実践が、生産者のやりがいを生み、消費者が安全で高品質のチョコレートを食べられるしくみをつくりだしている。カカオ農園では、自給用作物を含む多品種の作物と共に栽培することを奨励して生産激減のリスクを軽減し、また国際相場とは関係なく、環境・人道・品質面の独自の基



準でカカオの価格を決めて、農家へ収入の安定をもたらししている。近年は、JICAからの委託で、フィリピン・ミンダナオ島でカカオ栽培にも着手している。長く紛争が続いた地域で仕事を創出することは、平和構築にも役立つなど、社会的課題を解決するべく新しい事業が展開されている。

吉野さんが、先の見えない不安より、そこに含まれる可能性を信じて歩んできた生き方そのものに勇気をもたらした人も多くいた。持続可能な社会をつくるために、それぞれの現場で、またひとりの消費者として行動に移すことの大切さを感じた。



今回講師を務めて下さった川村信三さんは、日本歴史の専門家であると同時にイエズス会の司祭でもある。同氏は2016年に「キリシタン大

●2017年度「お茶のころ」と宗教のころー」  
**「キリシタン大名 高山右近の生涯が  
 私たちに問いかけるもの」**

上智大学文学部史学科教授 川村 信三さん  
 2017年9月9日(土)

様々な価値観が錯綜し、進むべき方向が見えなくなっている今日、戦国の世に武士の家に生を受け、戦さによって勢力を拡大していくことを運命づけられた高山右近が、11歳にしてキリスト教信仰を受け入れた後、どんな歩みを選び取っていったか辿り、我々の生き方に何らかの示唆を得たいと願った。

今川信三さんは、室町時代の末期、足利氏の勢力が衰え、諸大名が天下統治を競い合う時代に地方大名の長男として生まれ、織田信長に組みし22歳の時高槻城主に任ぜられた。11歳の時洗礼を受けてキリシタンとなっていた右近は、早速キリシタン領主として人道主義的統治を行った。例えば、当時穢れた存在として忌み嫌われていた死者の埋葬や病者の世話を領主自ら率先して引き受けた。その結果多くの人がキリシタンとなった。

右近26歳の時、直属の主君荒木村重が信長に謀反を企てた。信長は、右近に対し、信長に味方すればキリシタンを保護し、信仰の自由を許すが、

そうでなければキリシタンを成敗すると脅迫した。その時右近は、どちらにも組みせず、領土の所有を断念し、城から退去し、髪を切り、教会での奉仕に赴きたいと申し出た。信長は、この意表をついた申し出に驚き、右近が引き続いて高槻の地を支配するのを許した。その結果、高槻を中心とする地域にキリシタンが増え、近隣の大名の中からもキリシタンに帰依する人が多く出た。

キリシタンは互いに助け合い、領国を越えて交流し、強い絆によって結ばれた。それは、信長の後天下統一を目指した豊臣秀吉にとつて脅威であった。秀吉は右近を高槻から明石に移して領民から離し、さらにパレレン追放令を出して、右近を領主の地位から追放した。右近35歳の時、右近が領主として務めを果たしたのはたった14年間であった。

その後右近は、イエズス会宣教師たちが行う「霊操」と呼ばれる30日間の沈黙と黙想体験を行なった後、加賀金沢城主前田家により匿われ、そこでひたすら2畳の茶室に籠って祈る日を送った。茶室は彼にとつて、神に出会う特別な聖所であった。しかし30年後秀吉の後を継いだ徳川家康は、右近を国外追放に処した。この世のすべての権力を奪われ、外部との交流もほとんど断たれた右近の歩みは、一見冬眠していたように見えるが、その存在は30年後もお力によつて民を支配する当時の権力者にとつて、その統治を根幹から揺るがすものに見えに違いない。右近はもう一度「霊操」を行い心を整えてマニラへ旅立った。マニラに到着すると間もなく、彼はその64年の生涯を終えた。

しかし、右近の祈りは彼の死をもつて終わらなかつた。彼の撒いた福音の種は、隠れた形で7世代に亘つて250年間も受け継がれ、やがて公に受け入れられる日への備えをした。

彼は、11歳の時受けたキリストの福音を生涯大切にしつつ、置かれた場所でその時々の時可能な応答を精一杯なしつつ、希望を後の世代へと繋いだ。

宣教師たちが行う「霊操」と呼ばれる30日間の沈黙と黙想体験を行なった後、加賀金沢城主前田家により匿われ、そこでひたすら2畳の茶室に

プログラム案内

◆関東活動センター

■聖書を読む講座I

「いのちをかけてのメッセージ『イエスの譬え話』に聴く」(全9回)

講師:山口 里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時:2017年4月~2018年1月 第2火曜 18:30~20:00 ⑦11月14日、⑧12月12日

会場:早稲田奉仕園スコットホール 参加費:1,200円/学生500円 テキスト:『イエスの譬え話2』

新教出版社

共催:早稲田奉仕園

■2017年度関東フォーラム 宗教対話I

「日本キリスト教史を読む」第I期(明治篇全7回)

講師:戒能 信生さん(日本基督教団千代田教会牧師)

第6回「新渡戸稲造の生涯とその人格的信仰」

日時:11月9日(木)14:00~16:00 会場:日本キリスト教会館1階 参加費:500円

オプション・ツアー

「明治期に創立された教会を訪ねる」富士見町教会・本郷中央教会・弓町本郷教会

集合:11月16日(木)11:00日本基督教団富士見町教会1階ロビー

ナビゲーター:戒能 信生さん 参加費:1,000円

◆関西セミナーハウス

■月釜 清心会

日時:2017年11月12日(日)、12月10日(日)

財団本部 http://www.academy-nippon.com 関東活動センター http://www.academy-tokyo.com 関西セミナーハウス http://www.kansai-seminarhouse.com/ 関西セミナーハウス活動センター http://www.academy-kansai.org

公益財団法人 日本キリスト教文化センター 代表理事 小久保 正 本部事務局 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23 TEL 075-711-2147 FAX 075-701-5256 関東活動センター 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 日本キリスト教会館1F TEL 03-3207-6198 E-mail:info@academy-tokyo.com 関西セミナーハウス/ 関西セミナーハウス活動センター 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23 FAX 075-701-5256 関西セミナーハウス TEL 075-711-2115 E-mail:info@kansai-seminarhouse.com 関西セミナーハウス活動センター TEL 075-711-2117 E-mail:office@academy-kansai.org

9:00~15:00受付(1、8月を除く年10回) 於:関西セミナーハウス 年会費:5,000円、臨時会費1,000円

◆関西セミナーハウス・関西セミナーハウス活動センター共催

■2017年度もみじまつり

茶席3席、邦楽席(箏演奏) 「水墨画の世界」「和太鼓の響き」

日時:2017年11月23日(木・祝) 9:00~16:00

会場:関西セミナーハウス 参加費:入館券(抹茶二席、お弁当、コンサート)

前売 3,500円、当日4,000円(若干席)

◆関西セミナーハウス活動センター

■2017年度お茶のころと宗教のころII

「聖書をいっしょに読みましょう」(全8回) 座長:榎本 栄次さん(日本基督教団牧師)

日時:⑦11月9日、⑧12月7日 木曜13:30~16:30

会場:関西セミナーハウス 参加費:1回1,500円 学生500円(抹茶含む) 定員:20名

■2017年度修学院フォーラム「社会」

第2回宗教と戦争を考える〈4〉 「内村鑑三の戦争観」

講師:岩野 祐介さん(関西学院大学神学部教授)

日時:2017年11月11日(土) 13:30~17:30

会場:関西セミナーハウス 参加費:一般2,300円、学生1,000円(コーヒー込)

第3回核兵器禁止条約を知り考える集い 「なぜ日本は「核兵器禁止条約」に賛成できないのか—何が日本を守るのか」

講師:富田 宏治さん(原水爆禁止世界大会起草委員長、関西学院大学法学部教授)

日時:2017年12月16日(土) 13:30~17:00

会場:関西セミナーハウス 参加費:500円

■2017年度開発教育セミナー

第5回「沖縄のまなざし、沖縄へのまなざし—メディアの報道と私たち」

講師:安田 浩一さん(ジャーナリスト)

日時:2017年11月18日(土) 16:00~19日(日)12:00

第6回「もっと知りたいイスラーム—中東とヨーロッパの「今」から学ぶ」

講師:内藤 正典さん(同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授)

小杉麻季亜さん((特活)京都イスラーム文化協会アカデミック・アドバイザー、立命館大学講師)

日時:2017年12月9日(土)16:00~10日(日)12:00

会場:関西セミナーハウス 参加費:10,500円(1泊2食込)

賛助会費・寄付金報告

2017年7月1日~8月31日 (順不同・敬称略)

◆財団本部 寄付金 中井 博雅 10,000 日本基督教団早稲田教会 50,000 ◆関東活動センター 賛助会費 大鹿 康廣 3,000 西浦 昭英 2,000 寄付金 服部 千賀子 5,000 谷津 槇子 5,000 中井 博雅 10,000 神学生交流プログラム寄付金 中井 博雅 10,000 ◆関西セミナーハウス 寄付金 上野 茂雄 10,000 日高 正宏 10,000 武藤 高司 10,000 中井 博雅 30,000 北織 清 3,000 土田商店 土田敏正 5,000 株式会社祇園辻利 10,000 岡林 功 10,000 菊岡 克彦 10,000 オロヴェリイ(ダマヌール日本) 50,000

田中 克郎 300,000 ◆関西セミナーハウス活動センター 賛助会費 日高 正宏 10,000 手銭 秀夫 10,000 メシアニックジャパン出版合同会社 10,000 中山 晴美 5,000 柳原 清美 5,000 丸山 まり子 5,000 小澤 妙子 5,000 山本 貞子 5,000 關岡 一成 5,000 岩崎 裕保 5,000 桜井 希 5,000 金山 顕子 5,000 岸田 晃子 3,000 都木 かおり 3,000 寄付金 中井 博雅 10,000 金山 顕子 11,200 修学院一日アシュラム 7,000 NPO 法人沢内伯楽 10,000 開発教育セミナー寄付金 中井 博雅 5,000 エネルギープログラムなど寄付金 中井 博雅 5,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。